

SHO

VIRTUOSO JAPANESE
SERIES

笙



Sonica Instruments

SHO

Virtuoso Japanese Series

User Manual

Version 2.0 — July 2022

この度は Sonica Instruments Virtuoso Japanese Series SHO を
お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本物の日本の音を追求するこの製品を是非お楽しみください。

The Sonica Instruments Team

バージョン履歴

Release Update 2.0

- ・ Groove Browser 機能を追加
- ・ EQ ウィンドウにステータス LED を追加
- ・ 動作環境の変更 (KONTAKT 6.6 以降)

Release Update 1.5

- ・ NKS および NATIVE ACCESS に対応

はじめに

笙とは

日本の雅楽で使用される重要な3種類の管楽器のひとつで、全長は40~50cm。17本の竹管を持っています。鳳凰が翼を立てたようなその姿から鳳笙(ほうしょう)とも呼ばれ、その音色は天上から降り注ぐ光と表されており、飛鳥時代から形も音色もほとんど変わることなく、現在に至るまで雅楽の中心的な役割を持つ管楽器の一つです。17本の内、15本の竹の根元に簧(した注:リード)があり、それぞれの管に開けられた指穴を押さえながら、吹き口より息を吹いたり吸ったりすることで簧が振動し、音となります。また、吸っても吹いても同じ音程が鳴るため、途切れることなく音を鳴らし続けることができ、演奏の特徴となっています。歌の伴奏などに「一竹(いちちく)」と呼ばれる単音での吹奏がなされ、合奏には「合竹(あいたけ)」と呼ばれる和音を奏して、包み込むような美しい音色で空間を創り出します。

Virtuoso Japanese Series SHO について

この製品は笙のリアルな再現を目標に開発されました。笙の演奏は石川高(いしかわ・こう)氏。繊細かつ美しいロングトーンから荒ぶる音まで変幻自在の竹の音。熟練した演奏を惜しみなく提供していただきました。さらに妥協のないレコーディング、KONTAKT プログラミングによって、まさに天上から降り注ぐ光とされる笙の音色に最も近いソフトウェア音源として完成しました。ぜひ SHO をたくさんの音楽の中でお使いください。そしてなにより私達は本物の邦楽器と演奏者をリスペクトしています。この製品をお使いになっていただくことが、皆様が本物の笙の魅力を知るきっかけになれば幸いです。

製品の特長

高精細な 24bit、96kHz のマルチマイク収録

レコーディングは10本以上の様々なマイクと色付けのないマイクアンプを使用、高精細な24bit、96kHzレコーディングされました(製品では24bit、44.1kHzで収録)。

製品では DirectMic、OverheadMic、RoomMic、StereoMix の使いやすい4種類のマイキングでミキシングが可能です。

笙特有の演奏表現をリアルに再現する、専用発音メカニズムとインターフェースを開発

合竹(あいたけ)と一竹(いちちく)での演奏を実現

複数の管を同時に鳴らす11種類の和音(合竹)“Chord Tone”と、1本の管を鳴らす単音(一竹)“Single Tone”を収録。独立して演奏可能です。もちろんアーティキュレーション・コントロールも独立して行うことが可能です。

パイプインジケータ

複雑な竹管の配列と発音状態をモニター可能なパイプインジケータを装備。管の音名が古典音名でわかりやすく表示され、Chord(合竹)演奏時には11種の和音名も表示されます。

また、後述のスケールチューニング・ボックスと連動して動作するため、各竹管の音を鍵盤の音程でモニタリングでき、とても便利です。

古典奏法を可能にするキーモード

クロマチック・キー配列のほか、笙と同じ指使いで演奏可能なキー配列 trad.fingering を用意。このキーモードでは白鍵を竹管に見立てています。両手の指を白鍵に置き、まるで竹管の穴を塞ぐように演奏します。笙の演奏家の方にも非常に使いやすいばかりでなく、楽器の理解・学習にも役立ちます。

スケールチューニング機能

笙の演奏可能音域について、全クロマチックピッチを個別にチューニングできます。雅楽で使われるピタゴラス律や、楽器個体のオリジナルピッチ、平均律の他、オリジナルなチューニングを作成して演奏することができます。

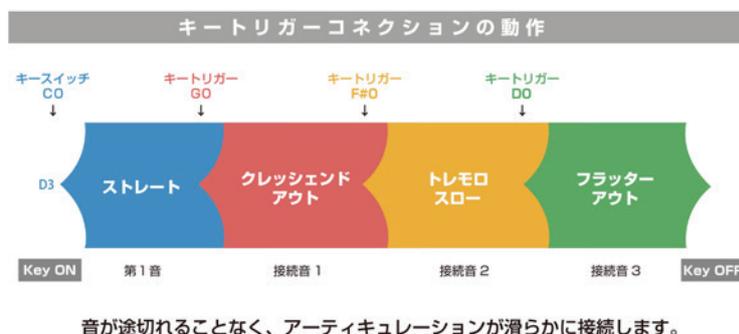
設定した値はもちろん保存して使うことが可能です。



演奏が途切れることなく奏法の変化が可能なキートリガーコネクション

延々と続く持続音が特徴の笙ですが、息遣いによって多彩なアーティキュレーションを表現可能です。そしてそのほとんどが音が持続させながら自然に繋がって変化していきます。

このような挙動を再現するキートリガーコネクションを装備。演奏中にキースイッチを入れることで任意のアーティキュレーションへと自然に変化させることが可能です。



無段階に音色の強弱を表現するエクスプレッション

息の強さとペロシティで吹き音のコントロールが可能です。

サンプルベースでありながらも、滑らかでダイナミックな息づかいを表現することができるため、さながらウィンドコントローラーのような感覚で鍵盤演奏が可能です。

音の立ち上がりをコントロールするブロウスピード

エクスプレッションに加え、息のスピードによる音の立ち上がりスピードに汎用コントローラーでコントロールでき、もたつきのない演奏が可能です。

ポリフォニックレガート奏法

演奏中に音を積み重ねたり、ある音だけを違う音程に移動させるようななど、単音でも和音でも可能なポリフォニック・レガート奏法が可能です。笙ならではの奏法といえるでしょう。SustainPedal で瞬時に ON/OFF が可能です。

笙ならではのアーティキュレーションを豊富に収録

ストレート（吹き音 / 吸い音）、フラッター（吹き音 / 吸い音）、スフォルツァンド、クレッシェンド、トレモロスロー（吹き音 / 吸い音）、トレモロファースト（吹き音 / 吸い音）など、あらゆるアーティキュレーションを ChordTone（合竹）と SingleTone（一竹）で収録しており、MIDI 鍵盤上で表現力豊かなリアルタイム演奏が可能です。

もちろんすべてのアーティキュレーションがキートリガーコネクションで接続可能です。

3人まで増やせる、アンサンブル機能

雅楽の管絃では楽器ごとに複数の奏者が配置され、厚みのあるユニゾン演奏を行います。ソロ、2人、3人のモードを選択でき、各奏者の演奏のずれ具合、配置の広がりをコントロール可能です。

Groove Browser

定番フレーズを Groove（MIDI フレーズ）として収録。ブラウザ画面から MIDI データとして、DAW 上にドラッグしてそのまま使用することができます。

NKS に対応

NKS に対応し、KONTAKT PLAYER / KONTAKT / KOMplete KONTROL 上で使用することができます。KOMplete KONTROL キーボードなど NKS 対応ハードウェアとの連携時には、音色を素早くプレビューしたり、ハードウェアのノブやコントローラーをフル活用することができます。

製品仕様

Native Instruments KONTAKT 6.6 以降

KONTAKT PLAYER 対応

NKS 対応

システム要件

- ・ Mac : Intel Macs (i5 以降に対応する): macOS 10.15、10.15、11、または 12 (最新アップデート)
Apple シリコン搭載の Mac(Rosetta 2、ARM ネイティブのスタンドアロン経由またはサポートするホスト): macOS 11 または 12(最新アップデート)
 - ・ Win : Windows 10、または 11 (最新 Service Pack)、Intel Core i5 または同等の CPU、2 GB RAM
 - ・ OpenGL 2.1 以降に対応するグラフィックハードウェア
 - ・ 4GB RAM (6GB 以上推奨)
 - ・ データ容量 : NCW 約 2.38 GB 相当 (WAV 約 3.15 GB 相当)
 - ・ ライブラリーを快適に動作させるためには、より高速な CPU と、余裕のある RAM メモリーを搭載したコンピュータに製品をインストールすることをお奨めします。
- ※ご使用時にインターネットを経由したユーザー登録が必要になります。

必要な MIDI コントローラー

いくつかのコントローラーを用意することで、より SHO の機能を最大限に生かし、リアルな演奏を再現出来ます (CC : コントロールチェンジ)。

Sustain Pedal CC#64

演奏中に音を積み重ねたり、ある音だけを違う音程に移動させるような、単音でも和音でも可能なポリフォニック・レガートの ON/OFF や、発音中にアーティキュレーションを変化させるキートリガー・コネクションの ON/OFF をコントロールすることができます。

Modulation Wheel CC#1

Blow Expression : 息の強さで音量と音色をコントロールします。

Quick Reference to SHO (PDF) を利用すると便利です。

笙には特有の演奏方法、音名、和音名があるため、それらを古典和名とともに簡単にまとめた同 PDF を見ながら作業することをお薦めします。

製品をお使いいただくにあたって

本製品をお使い頂くには NATIVE ACCESS 2 アプリケーションで「**シリアルコードの登録**」と「**ライブラリデータのダウンロード**」を行う必要があります。なおインストール作業の詳細な操作や最新の情報は [Sonica Instruments のウェブサイト](#) でご確認ください。

1.NATIVE ACCESS 2 のインストール

※ NATIVE ACCESS 2 をすでにお使いの方は、この操作は不要です。

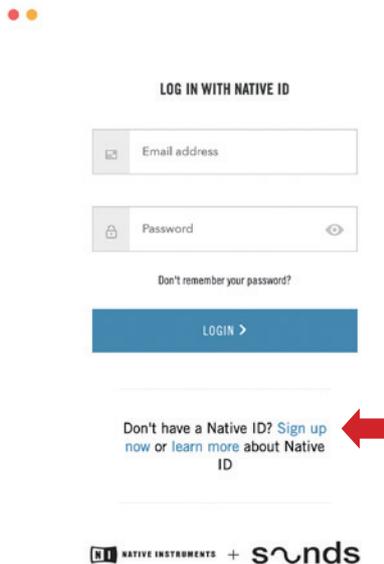
Native Instruments 社の WEB サイト (<https://www.native-instruments.com/jp/specials/native-access-2/>) よりお使いのパソコン OS に合わせた「NATIVE ACCESS 2 インストーラー」をダウンロードし、以下の手順でインストールを行ってください。



2.NATIVE ID でログイン

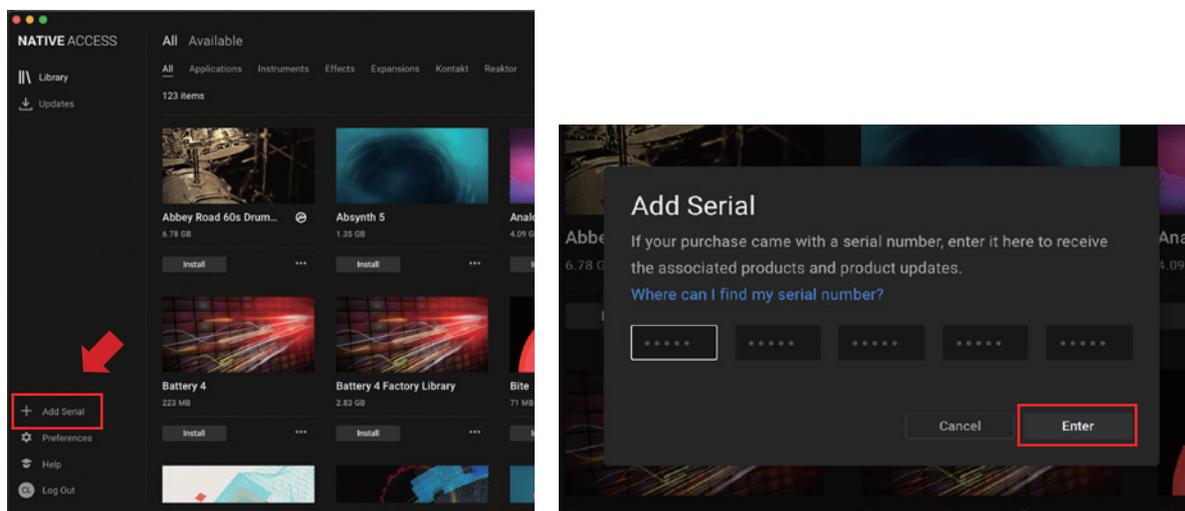
インストールした NATIVE ACCESS 2 を起動してログインします。

Native Instruments のアカウントをお持ちでない場合、画面内の「Sign up」をクリックし、アカウント作成画面を開き、必要事項を入力してアカウントを作成（無料）してください。

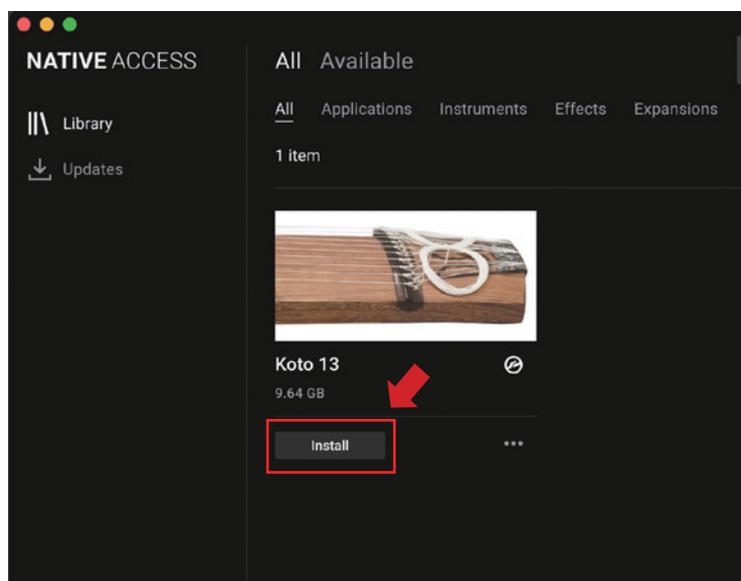


3. シリアルコードの登録

NATIVE ACCESS 2 を起動し、メニューから「Add Serial」をクリックして表示されるウィンドウの赤枠内に、製品購入時に発行された 25 桁のシリアルコード（シリアルコードは、購入時に E メールでお送りしています）を入力し「Enter」ボタンをクリックします。



画面に「Success」と表示されたら登録は完了です。新たに登録された製品は「New」タブに表示されます。製品の「Install」ボタンをクリックすると、ダウンロードとインストールが開始されます。



以上でライブラリのインストールは完了です。

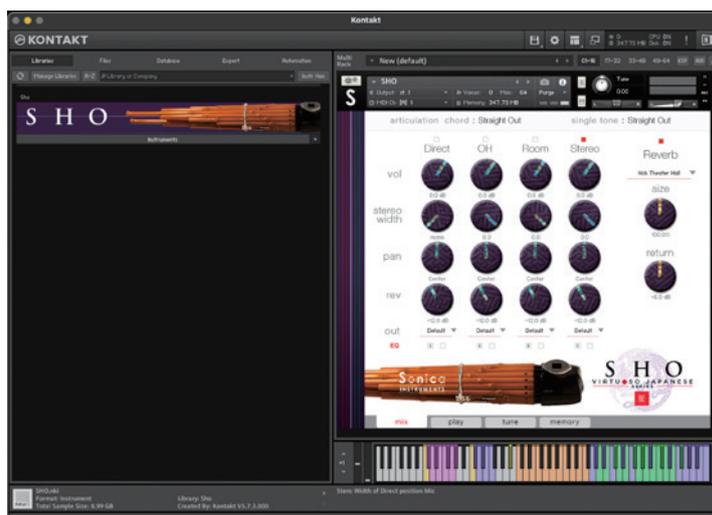
ダウンロードの完了後に KONTAKT / KONTAKT PLAYER を起動すると、画面左側の Libraries タブに自動的に製品が追加されます。同様に、KOMPLET CONTROL でも使用することができます。

製品の基本概念

SHO は KONTAKT および KONTAKT PLAYER、KOMPLETE KONTROL ソフトウェアで使用することができます。

KONTAKT および KONTAKT PLAYER で使用する場合

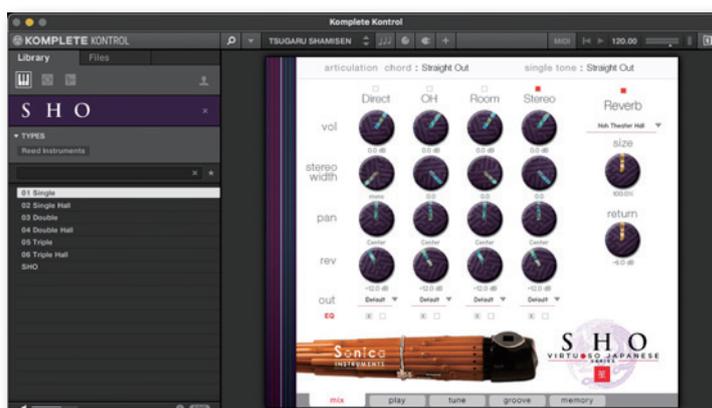
アクティベーションが完了すると、KONTAKT の LibraryBrowser に SHO のライブラリパネルが追加されます。音色を読み込んでお使いください。



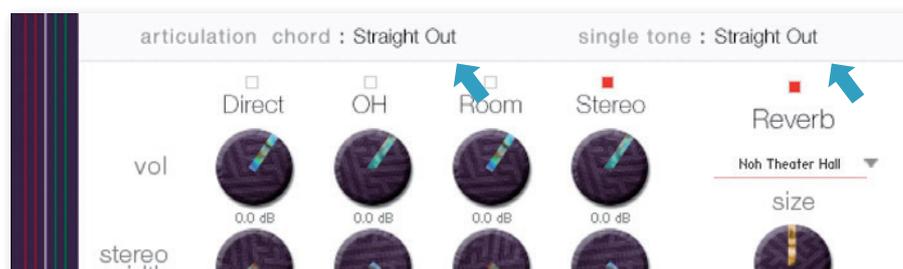
KOMPLETE KONTROL で使用する場合

本製品は NKS に対応しているため、KOMPLETE KONTROL や KOMPLETE KONTROL キーボードと連携し、音色をプレビューしたり、設定をプリセットとして保存する事も可能です。KOMPLETE KONTROL キーボードのノブコントローラーやブラウザ機能と共に、快適にお使いいただけます。

詳しくは [P.21 「KONTROL シリーズのコントローラーパラメータ」](#) をご覧ください。



articulation のモニター表示



ウィンドウ上部にあるこの2つの表示は mix ページ・play ページ・tune ページ・groove ページ・memory ページ全てで常に表示され、key switch で選択されている内容が常にモニターできるようになっています。

chord

合竹 (chord tone) 用 key switch で選択されたアーティキュレーション (奏法) 名が表示されます。key switch は KONTAKT のキーボードで確認できます。

single tone

一竹 (single tone) 用 key switch で選択されたアーティキュレーション (奏法) 名が表示されます。key switch は KONTAKT のキーボードで確認できます。

articulation

key switch で選択されたアーティキュレーション (奏法) 名が表示されます。key switch はKONTAKT のキーボードで確認できます。

for 合竹 (chord tone)

KeySwitch	ArticulationName	奏法名	Key Trigger Connection
C0	Straight Out	ロングトーン (吹き音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
C#0	Straight In	ロングトーン (吸い音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
D0	Flutter Out	フラッタートーン (吹き音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
D#0	Flutter In	フラッタートーン (吸い音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
E0	Sforzando	スフォルツァンド	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
F0	Tremolo Slow	トレモロスロー	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
F#0	Tremolo Fast	トレモロファスト	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
G0	Crescendo Out	クレッシェンド (吹き音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
G#0	Crescendo In	クレッシェンド (吸い音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能

for 一竹 (single tone)

KeySwitch	ArticulationName	奏法名	Key Trigger Connection
C1	Straight Out	ロングトーン (吹き音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
C#1	Straight In	ロングトーン (吸い音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
D1	Flutter Out	フラッタートーン (吹き音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
D#1	Flutter In	フラッタートーン (吸い音)	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
E1	Sforzando	スフォルツァンド	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
F1	Slide-Up	スライドアップ	○サスティンペダル (CC#64) で ON/OFF をコントロール設定可能
A#1	Legato on / off	-	-

- ・ Chord Tone、Single Tone は同時に発音、独立したキースイッチでアーティキュレーションを選択可能です。
- ・ すべてのアーティキュレーションがキートリガーコネクションで接続可能です。

MIDI キーボードのレイアウト

C0 ~ F1 : アーティキュレーション Key Switch Zone

C0 ~ G#0 : 合竹用アーティキュレーション Key Switch Zone

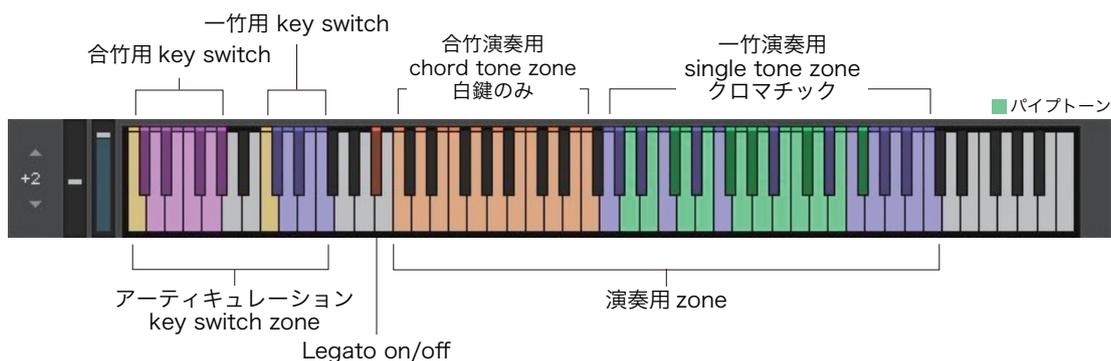
C1 ~ F1 : 一竹用アーティキュレーション Key Switch Zone

A#1 : Legato の on/off 切り替え

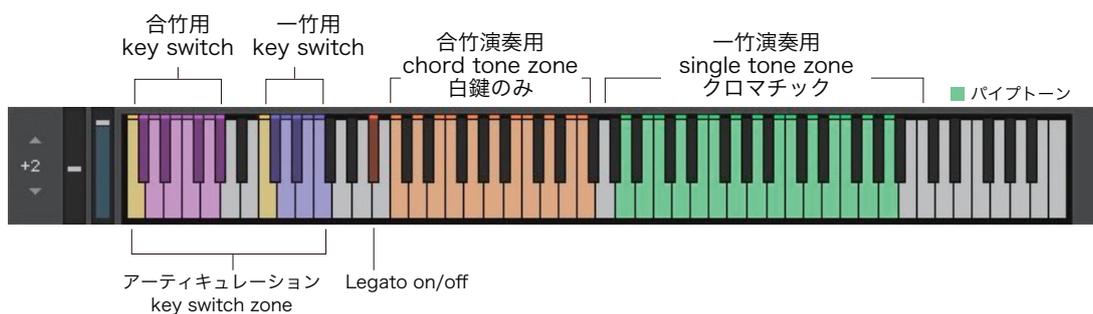
C2 ~ F3 : 合竹演奏用 Chord Tone Zone

G3 ~ C6 : 一竹演奏用 Single Tone Zone (key mode 及び articulation により変化します)

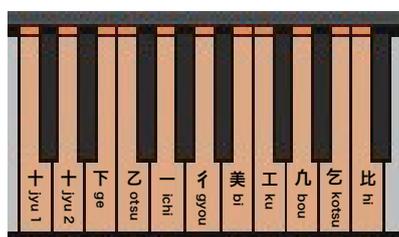
Key mode : chromatic 選択時



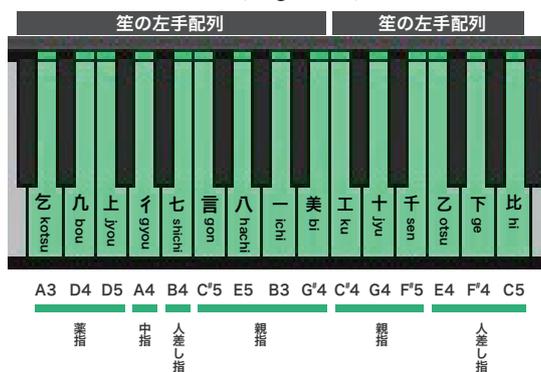
Key mode : trad. fingering 選択時



合竹 (chord tone)

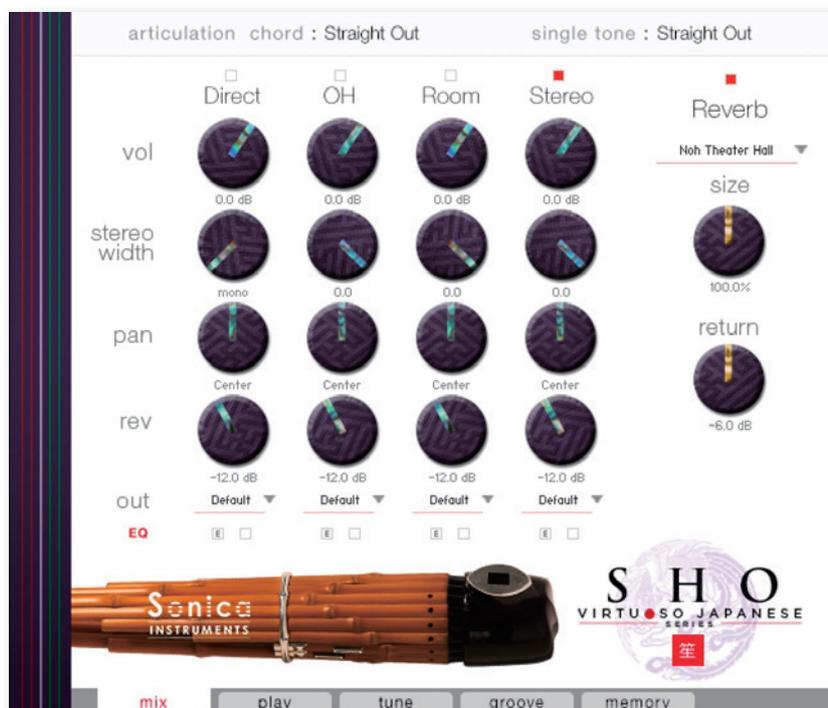


一竹 (single tone)



mix

このページでは基本的な音作りを行います。



Audio Mixer

Direct、OH(OverHead)、Room3 種類のステレオマイクポジションとマルチマイク音源をあらかじめバランスよくミックスされた StereoMix をミキシングできます。マルチマイクのチャンネルが ON の時は "Stereo" は Off になり、逆に "Stereo" が On の時はマルチマイク・チャンネルは Off になります。

vol: 各チャンネルの音量をコントロールします。

width: ステレオマイキングの広がりを調整します。100% でオリジナルの広がりに、0% でモノラルになります。

pan: 各チャンネルの panpot を調整します。

rev: 各チャンネルのコンボリューション・リバーブへのセンド量を調整します。

out: 各チャンネルのオーディオ出力先を選択します。お使いの DAW へマルチ・チャンネルの状態に取り込む時に便利です。

○各マイクのサウンドを、マルチアウトする



アウトプットを作成した後 (※)、KONTAKT のインターフェース右上の「!」ボタンをクリックすると、SHO の out メニューに作成したアウトプットが反映されます。

※アウトプットの作り方は、KONTAKT のマニュアルをご覧ください。

EQ

各チャンネルに搭載された4 band Equalizerを調整します。左ボタン[E]をクリックするとEqualizerウィンドウがポップアップされます。右のボタンでEqualizerのON/OFFを行います。



Reverb

能楽堂のIR(インパルスレスポンス)2種を含む全30種類のコンボリバーブを選択できます。



size:ReverbTime を調整します。

return:Reverb 成分の音量を調整します。

MIDI CC# Learning 機能

すべてのコントロールノブはMIDI CC (ControlChange) で個別にコントロールできます。

Learn MIDI CC# の設定方法



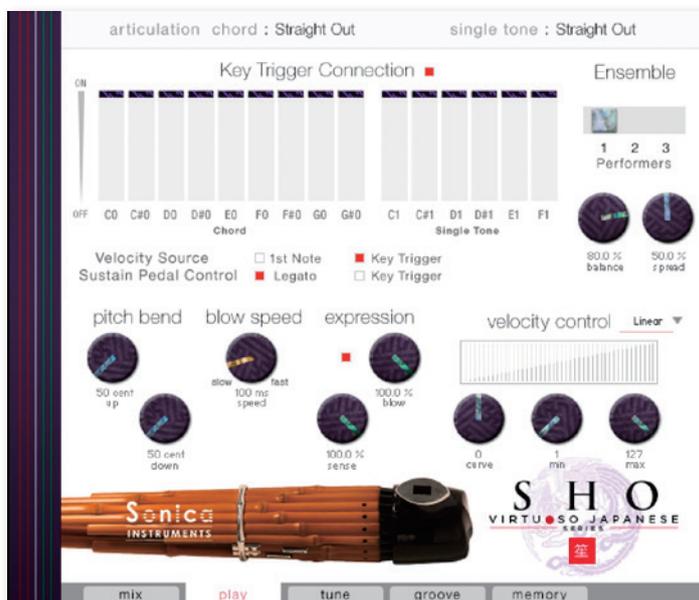
1. コントロールノブを右クリックし "Learn MIDI CC# Automation" を表示する
2. コントロールに使いたい MIDI コントローラーの操作子を動かす
3. 設定完了

MIDI CC# Automation のリムーブ

設定を削除するには、該当のコントロールノブを右クリックし "Remove MIDI Automation CC#xx" を選択してください。

play

このページでは笙の演奏コントロールと音色のニュアンスを設定します。



Ensemble

ソロ、2人、3人のモードを選択でき、各奏者のずれ具合、配置の広がりコントロールします。

Ensemble



1 2 3
Performers



80.0 %
balance

50.0 %
spread

Performers : ソロ、2人、3人を選択出来ます。

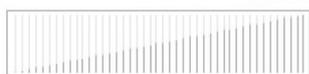
balance : 2人目、3人目の演奏音のミックスバランスを調整

spread : 2人、3人モード時の配置の広がり調整

Velocity Control

ベロシティに対するサウンド変化をコントロールします。

velocity control



0
curve

1
min

127
max

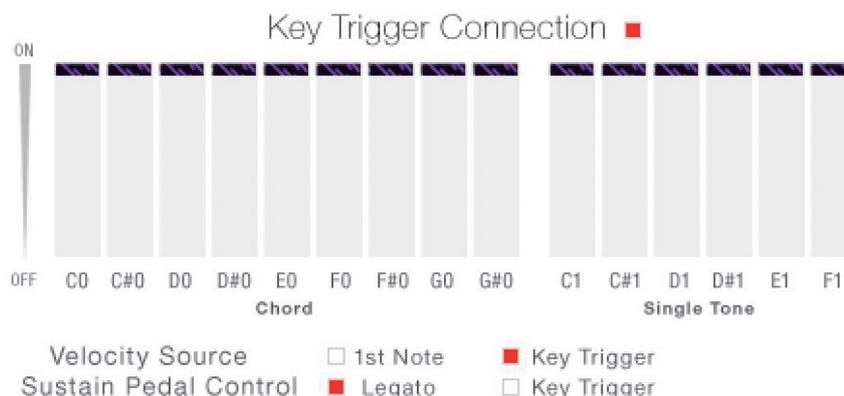
curve type : Velocity カーブを「Linear」「S-Curve」「Compound」「Fixed」「User」から選択します。

curve : 選択したカーブに変化をつけます。

min : 発音する Velocity の最小値を設定します。

max : 発音する Velocity の最大値を設定します。

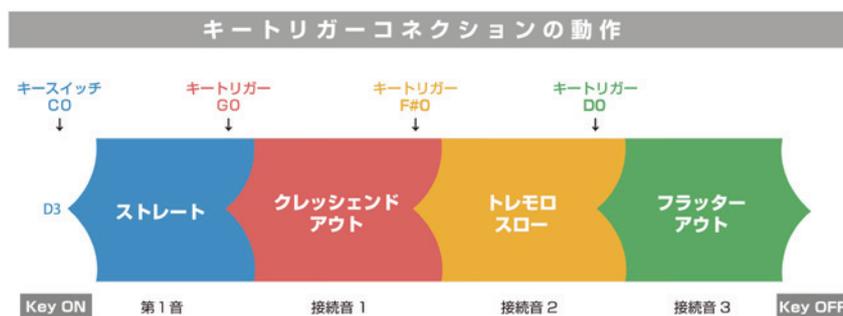
Key Trigger Connection



延々と続く持続音が特徴の笙ですが、息遣いによって多彩なアーティキュレーションを表現することができます。そしてそのほとんどが音が持続させながら自然に繋がって変化していきます。このような挙動を Key Trigger Connection で再現することが可能です。Key Trigger Connection は、従来のキースイッチでの表現を遥かに凌ぐ、ごく滑らかなアーティキュレーションコントロールを可能にします。

この動作は鍵盤を押している間、任意のアーティキュレーションへ何回でも自然に接続することが出来ます。

またこの機能の ON-OFF はサスティンペダル (CC#64) に割り当てる事が可能です。Key Trigger Connection を使いたい時に瞬時にアクティブにすることができ、エモーショナルな演奏表現に役立ちます。



音が途切れることなく、アーティキュレーションが滑らかに接続します。

Velocity Source

Key Trigger Connection によって接続されたアーティキュレーションのペロシティのソースを選択します。

1st Note : 最初のキーオン時のヴェロシティを受け継いで次のアーティキュレーションへ接続します。

Key Trigger : 接続するアーティキュレーションを Key Trigger のペロシティで発音します。接続時のニュアンスを付けるのに適しています。

Sustain Pedal Control

サスティンペダル (CC#64) に割り当てる動作を選択します。

Legato : シングルトーン演奏時、管から管へ移動する際と、管を加えて音を増やす際のレガート接続を割り当てます。

複数の竹管を持つ笙特有の発音挙動を再現します。

Key Trigger : サスティンペダル (CC#64) に Key Trigger Connection の ON - OFF を割り当てます。

Pitch Bend

pitch bend

ピッチベンドの幅をアップ・ダウン個別に調整出来ます。



Blow Speed

blow speed

息のスピードによる音の立ち上がりスピードを調整出来ます。



Expression

expression

息の強さによる吹き音の調整が出来ます。

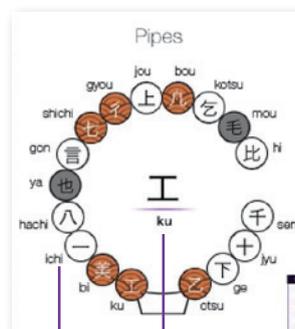
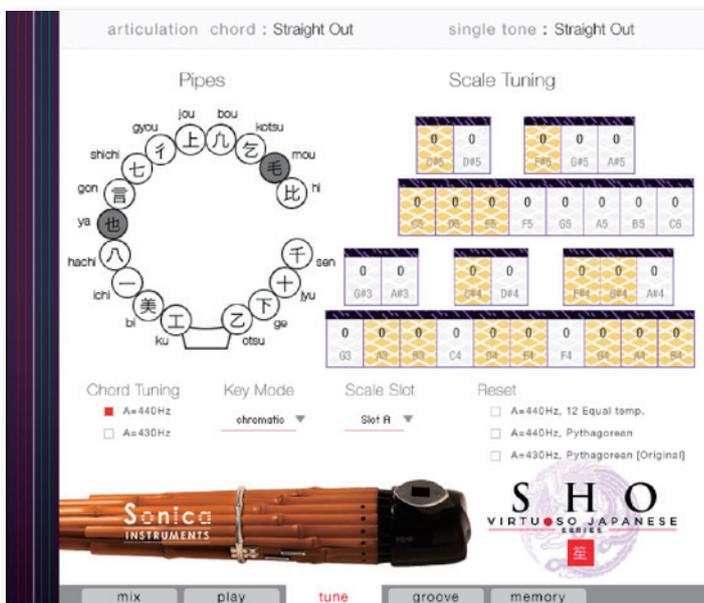


blow : 息の強さ。音量コントロール + 倍音コントロールを行います。製品出荷時には Mod. Wheel (CC#1) がアサインされています。

sense : blow による expression の効き具合を調整します。

Tune

このページでは、竹管の配列と発音状態をモニター可能なパイプ・インジケータの表示と、笙の演奏可能音域について、全クロマチックピッチを個別にチューニングすることが出来ます。また、古典の演奏を忠実に再現するキーモードの選択が可能です。



Chord名(合竹名)が表示されます。

竹管と音名

パイプ・インジケータ

複雑な竹管の配列と発音状態をモニター可能なパイプ・インジケータを装備。管の音名が古典音名でわかりやすく表示され、Chord(合竹)演奏時には11種の和音名も表示されます。また、後述のスケールチューニング・ボックスと連動して動作するため、各竹管の音を鍵盤の音程でモニタリングでき、とても便利です。

パイプインジケータの音名が書かれた竹管をクリックすると対応するスケールチューニングのスポットが点灯します。Chord名(合竹名)が表示されます。

Reset

雅楽で用いられる笙の430Hzピタゴラス音律を始め、440Hz平均律、440Hzピタゴラス音律にセットすることができ、それをベースに1鍵ごとにファインチューニングが可能です。リセットすると、選択中のScale Slotにリセットデータが書き込まれます。

A=440Hz, 12 Equal temp. : 440Hz 平均律

A=440Hz, Pythagorean : 440Hz ピタゴラス音律

A=430Hz, Pythagorean : 430Hz ピタゴラス音律

Chord Tuning

合竹(Chord Tone)の基本ピッチを設定します。

A=430Hz もしくは **A=440Hz**

Scale Tuning

笙の演奏可能音域について、全クロマチックピッチを個別にチューニングできます。黄色いボックスは竹管のオリジナル音程です。雅楽で使われるピタゴラス音律や、平均律に簡単に設定できるほか、カスタム・チューニングを作成して演奏することができます。設定した値はもちろん保存して使うことが可能です。

Key Mode

クロマチックの他、笙と同じ指使いで演奏可能なフィンガリング配列が選べます。

chromatic : 一般的なクロマチックスケール。シングルトーン15音以外の音程も演奏出来ます。

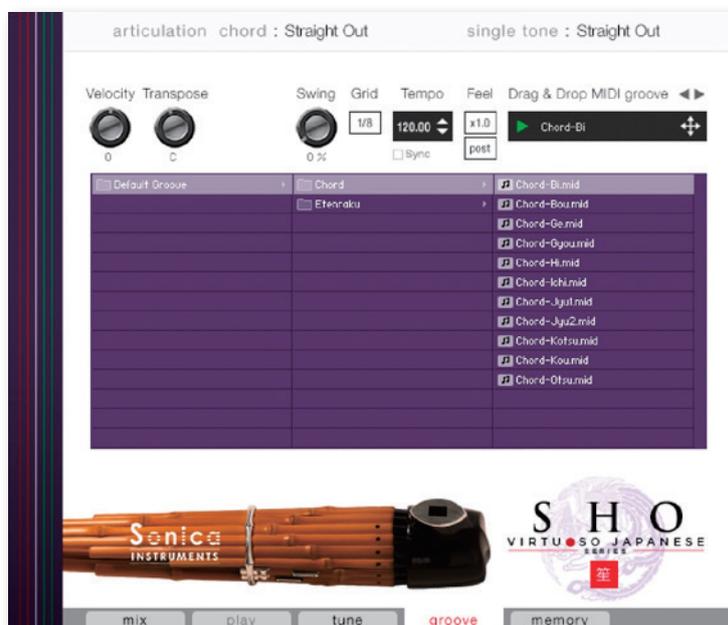
trad.fingering : 白鍵のみにシングルトーン15音を配列。右手左手で押さえる管を順番に配列してあります。

Scale Slot

作成したスケールは、SlotA,B,C3つのスポットにSave/Loadすることが出来ます。

groove

このページでは付属の MIDI Groove を検索・試聴したり、DAW ソフト上にエクスポートすることができます。

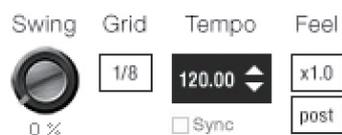


Velocity Transpose



Velocity : MIDI Groove の再生ベロシティを調整します。

Transpose : 半音単位でキーを変更します。



Swing : MIDI Groove にスウィング感を与えます。

Grid : Swing のクオンタイズ値を 8 分音符もしくは 16 分音符で切り替えます。

Tempo : 再生テンポを指定します。Sync が ON のときには変更できません。

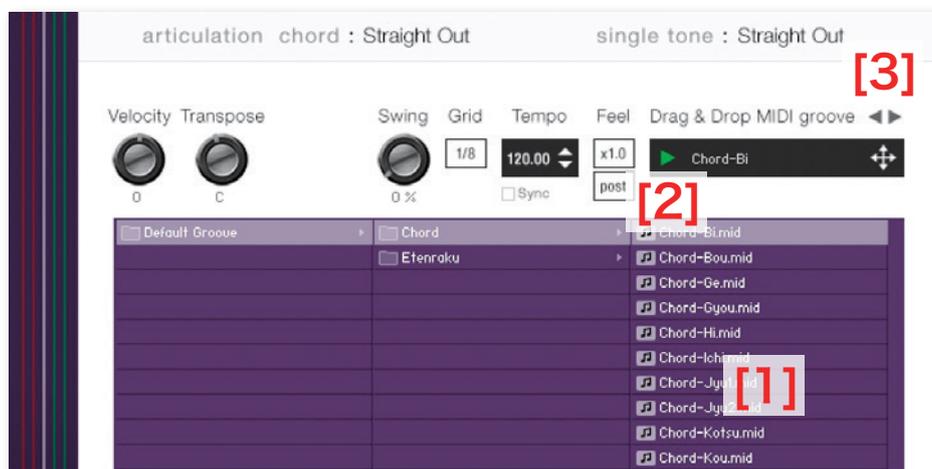
Sync : MIDI Groove の Tempo をホスト DAW ソフトに同期します。

Feel : フレーズの再生テンポを x1.0 (オリジナル)、x2.0 (2 倍のテンポ)、x0.5 (半分のテンポ) で切り替えます。

Process : Swing を Grid 適用前に掛ける (pre) か、適用後に掛ける (post) かを切り替えることができます。この調整により、同じフレーズ / 設定値でも異なる演奏フィールを表現することができます。

MIDI Groove を使う

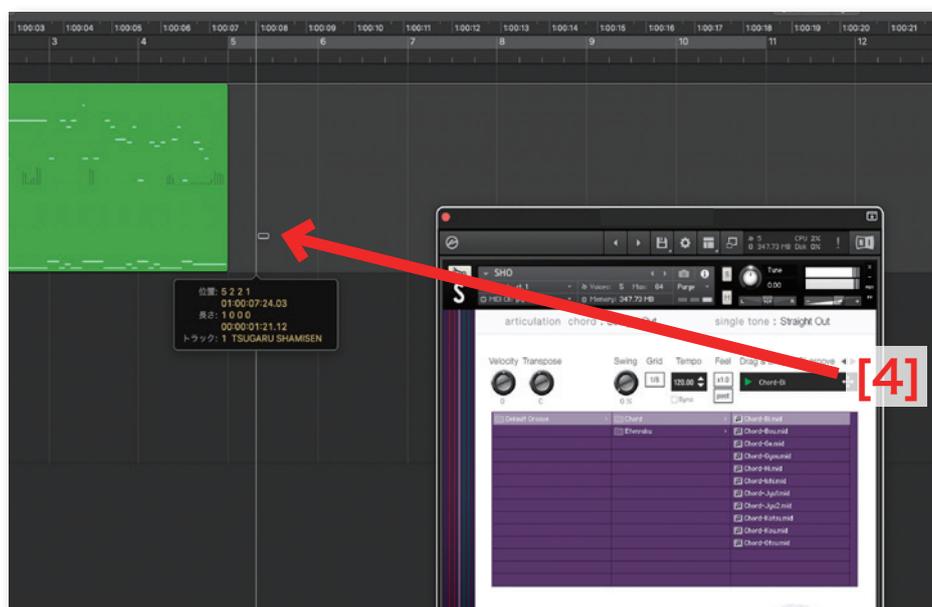
画面内のブラウザ [1] で使用したい MIDI Groove をダブルクリックすると Player に読み込まれます。▶ ボタン [2] をクリックするとプレビュー再生がスタートします。MIDI Groove の再生中にパターンをダブルクリックすれば、再生を止めることなくパターンを切り替えることができます。また、Player 部の ◀▶ キー [3] で前後のパターンに切り替えることもできます。



MIDI Groove のファイル名末尾に書かれた数字が、そのフレーズ作成時のテンポを表しています。

MIDI Groove をお使いの DAW ソフトウェアに取り込む

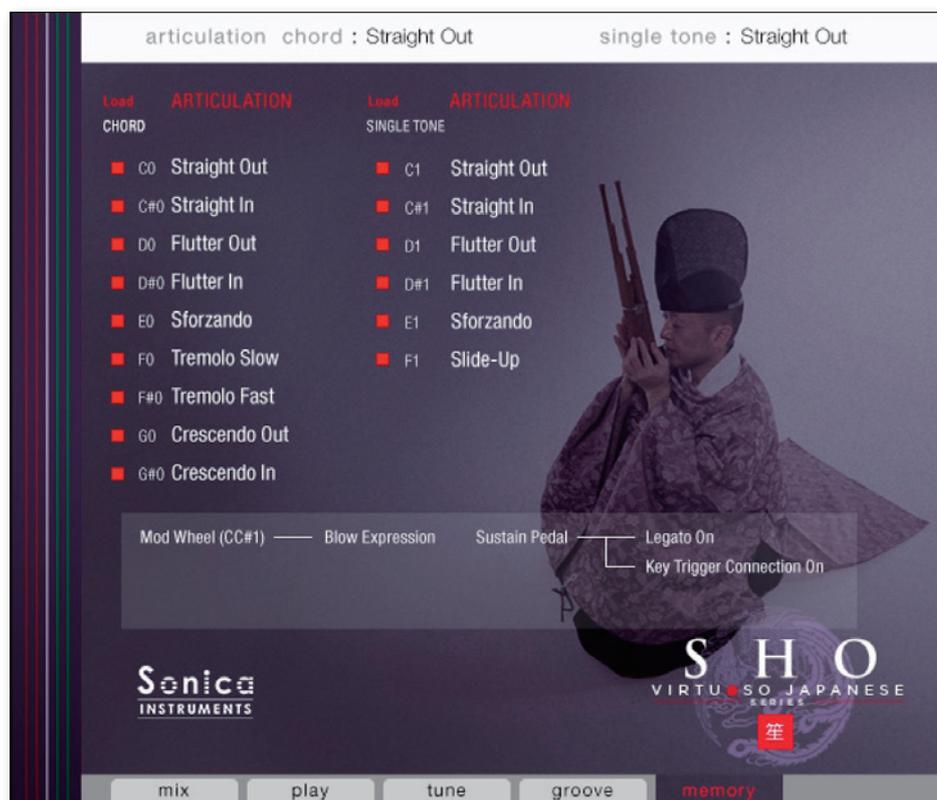
MIDI Groove は、MIDI データとして DAW ソフトウェアに取り込むことができます。⌘ キー [4] を DAW ソフト上にドラッグ & ドロップしてお使いください。



memory

このページでは、全アーティキュレーションと全フレーズバンクについて、サンプルの読み込みを個別に設定することができます。リストの Load ボタンをオフ（消灯）させることで、そのアーティキュレーションが無効になりメモリーサイズが軽減されます。

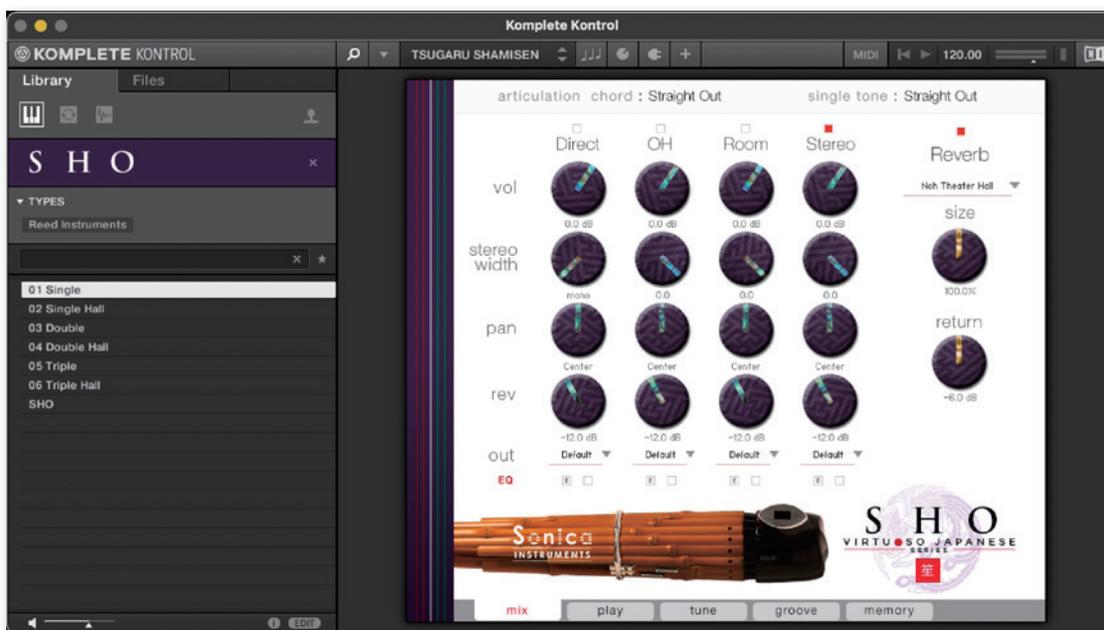
下段には MIDI コントロールチェンジナンバー、サスティンペダルの役割を表示してあります。



KONTROL シリーズのコントローラーパラメーター

KOMPLETE KONTROL や KONTROL シリーズ (MIDI キーボード) では、より直感的にコントローラーパラメーターを調整可能です (各パラメーターについては、前述の項目をご参照ください)。

KOMPLETE KONTROL ではコントロールボタンをクリックすると、パラメーターが表示されます。



Inst Editor

Instrument Editor のパラメーターをコントロールします。



Mixer Mic/Vol

Audio Mixer のパラメーターをコントロールします。使用するマイクチャンネルの選択と、チャンネルの音量を調整します。



Mixer Width/Pan

Audio Mixer のパラメーターをコントロールします。各チャンネルの Width と Pan を調整します。



Reverb

各チャンネルからリバーブへのセンド量と、Reverb のパラメーターコントロールします。



Direct EQ

Direct チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



OH EQ

OH チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



Room EQ

Room チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



Stereo EQ

Room チャンネルの EQ パラメーターをコントロールします。



Groove

Groove Browserのパラメーターをコントロールします。



S H O
VIRTUOSO JAPANESE
SERIES



Credits

Production, Recording, Editing and KONTAKT Development: Sonica Instruments

SHO Played by Ko Ishikawa

GUI Designer: Yujin Ono

Executive Producer: Tomohiro Harada

KONTAKT Programming: Rataro. M (Think Master Inc.)

Marketing, Translation & Production Consulting: Craig Leonard

Photography: Takashi Matsuda

Music Video: Yoshitaka Koyama

User's Manual: Yoshifumi Yamaguchi (Stylus Inc.)

Copyright © 2022 Sonica Inc. All rights reserved.

Sonica Instruments

<https://sonica.jp/instruments/>

Sonica
INSTRUMENTS

この書類に記載の情報の著作権は株式会社ソニカ (SonicaInc.) に帰属します。

複製、公衆送信、改変、切除、ウェブサイトへの転載等の行為は著作権法により禁止されています。

また、この書類の情報は、予告なく変更または削除する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

All copyrights and various intellectual property rights associated with the information contained in this document are owned and controlled by Sonica Inc. Copyrights and various intellectual property rights laws expressly prohibit the reproduction, public distribution, alteration, revision, or publication of this document on any other Web site or in other medium.

The information contained in this document is subject to change or deletion without prior notice.

